



地域の方から大詫間への想いや小さい頃の思い出などをお寄せいただく『私と大詫間』シリーズです。



8402211



第3回目は
大9区 森永 哲郎 さん

『つながり、支え合う、ふるさと大詫間』

大詫間は、筑後川の河口にできた中洲です。この中洲は、江戸時代初期、慶長年間(1596年～1615年)の慶長肥前国絵図に中洲として小さく載っています。

以来、400有余年、先人たちの知恵とたゆまぬ努力により、有明海の干満の差を利用し、堤防を築き、陸地化して約500haの広さからなる現在の大詫間はつくられました。この間、幾度となく襲ったであろう台風や高潮などの自然災害にもめげず、先人たちは一致協力し、干拓し続けた証が大詫間そのものです。

私は、この大詫間で昭和13年に生を受け、以来82年間ずっと暮らしてきました。そして、人力による軟弱な地盤に苦勞し、一致団結して困難な干拓工事を成し遂げた先人たちの優れた技法、大いなる実行力、さらには強い精神力に敬服し、教訓としてきました。

今、あらためてこの肥沃な土地を築き、豊かな海を守ってきた先人たちに感謝し、大詫間の住人としての誇りを持ち、国難ともいえるコロナ禍の収束を願い、明日の幸せを求めて頑張りましょう。

最後に、大詫間まちづくり協議会の合言葉「みんなでつくろう笑顔の大詫間」にバンザイ。

2月の成人学級は中止しました

春に咲く花を見て元気になってもらおう！と、2月18日(木)に寄せ植え教室を計画していました。しかし皆さんもご記憶のとおり前日から大雪。佐賀平野の年に数回しかない積雪の日に大当たり。やむなく中止にしました。教室を楽しみにされていた方には大変申し訳ないことになりました。また企画しますので、ぜひご参加くださいね。

植物つながりで

東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、日本の地方自治体が大会参加国・地域と交流を深める取り組みである『ホスタウン』に佐賀市も登録をしています。昨年末、その相手国の一つであるオランダからチューリップの球根をいただきました。コロナ禍で思うように交流ができない状況の中、少しでもオランダを感じてほしいとの大使館の取り組みなのだそう。小さなことですが確かにオランダを意識できますね。

何色の花が咲くのか楽しみです。つぼみがついたら玄関に移動しますので、見てくださいね。



大詫間 絆ウォーク 3月20日(土)

昔、小学校では遠足“春をたずねて”が行われていましたね。今回、まちづくり協議会主催で、みなさんの健康増進と地域の絆を深めるために、令和版“春をたずねて”が開催されます。

3月のお彼岸には暖かくなり、道端に咲いた花を眺めながらゆっくり歩いて、いい汗をかいてみませんか。参加される方は帽子やタオルをお忘れなく！みんなで楽しく・ムリせず・ゆっくり歩きましょう。



サロン三星クラブの例会がありました 2月8日(月)

介護福祉士の先生から、自宅でできるリハビリ体操や口腔体操、酸素不足が体に与える影響などのお話などを教えていただきました。みなさんも楽しそうにお話を聞き、体操もされていました。先生がお帰りになる時に「皆さん、リがよ、体操の足もピンと上がって元気で。とても楽しそうに体操してもらいました。実は私の方が緊張していました」と言われていました。皆さん、この調子でいつまでも足がピンと上がるように体操を続けてくださいね。

館長コラム

先月人間ドックを受けてきました。コロナの影響で予定より7か月遅れの受診です。日頃の食生活に後ろめたさを感じつつ、結果を見るまでは不安で落ち着きません。

ある調査によると健康診断が近づくと、少しでも良い結果を得るために急に運動を始めたり、食事制限や禁酒・節煙など何らかの節制をした人が6割もいたそうです。自分も診断結果にドキッとすることが無いことを祈り、1週間ぐらい前から悪あがきみたいなことをやっていますが、自分と同じような人が6割もいることに逆に安心感があります。

ただ、体質は短期間では早々変わらないそうです。健康診断で普段の生活習慣をごまかしていたら、大きな病気を見逃すことにもなりかねません。そうなったら大変です。普段のまま、ありのままの姿で健診・検診することは結局自分のためなのです。そうと分かっている、やっぱり悪い数値は見たくないし…。

春らしい暖かさが感じられるようになってきました。寒さで家にこもりがちだった身体は、免疫力が低下しています。コロナに負けないためにも、暖かい陽気と日の光を浴びながらの散歩はいかがでしょう。

この時期は、潮の香漂う堤防を野の草花や行き交う漁船を眺めながらの歩きがお勧めです。